遥かなるノスタルジー

何畳八畳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
遥かなるノスタルジー

【Ｎコード】
Ｎ９４５４Ｘ

【作者名】
何畳八畳

【あらすじ】
あの日の思い出が、僕をおかしくさせるのです・・・。下町に暮らす男のノスタルジーを感じる話題作！

北区滝野川、今でこそ古いアパートは建て替えで減ってはいるのだが・・・。

八月の古びたアパートの窓辺は、ヤケドしそうなくらい暑かった。
トランクス一丁で、窓際に腰掛けた僕は飛び上がってしまった。
「熱いっ！わぉ！」
その時ふと思い出した風景がある。
それは、親父が赤いきつねを膝に落として、大ヤケド一歩手前の事態に追い込まれた、というか自業自得の事件のことだ。

「そういえば、オヤジもトランクス一丁だったよな。」
「そうだったわね。」
「由紀子！いつ出て来たんだよ?！」
目の前に立っていたのは、二つ年下の妹、由紀子だった。
「お兄ちゃん、不用心ね。」
「なに?俺は踊りなんかやらないぞ。」
「それは、字が違うわよ。」
「お前こそ、そんな裸同然の格好して。」
「だって暑いんだもん。」
妹は白いホットパンツにピンクのノースリーブという、非常に刺激的な格好だった。
群馬県の高崎から、友達と新大久保に遊びに行く途中だという。
「友達は?」
「下で待ってるよ。」
「待たせたら悪いから、呼べばいいじゃない。暑いんだもん。」
「呼べるわけないでしょ、こんなきったねぇとこ。」
「あ、言ったな。そうだけど。」

窓から顔を出して、アパートの外を見ると友達が、赤いハイヒールに赤いふんどし姿で立っていた。

「ガタンッ！」

僕はケツに痛みを感じた。

どうやら、窓際で寝てしまったようだ。

そして、滑り落ちた。

リアルな夢だった。不思議な感覚だった。

父さんがこぼしてしまった、赤いきつねが無性に食べたくなって、近所のコンビニへ出掛けて、警察官に注意された。

「君、パンツ一丁にサンダルは街を歩く姿じゃないだろ！」

故郷を懐かしく思う気持ち。

それは、時に人を狂わせる。

（完）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9454x/

遥かなるノスタルジー

2011年11月16日12時45分発行